

令和5年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

1 スクールミッション

「誠実 克己 忠恕」の理念のもと、理解力、思考力、協働力、探究力を備え、世界や地域の課題を自分の課題として仲間と一緒に解決に向けて活動するグローバル・リーダーとして、これからの社会を切り拓くことのできる人材を育成する。

2 スクールポリシー

- 育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- 世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物、グローバル・リーダー（GL）を育成します。
 - 座学のみならず、地域等と連携した多彩な活動等に取り組み、将来予測が困難な時代に未来を切り拓くGLに必要な3つの心と4つの力を身に付けます。
3つの心……誠実・克己・忠恕
4つの力……理解力・思考力・協働力・探究力

3 自己評価

項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取組	達成状況			取組状況・改善方針
				取組	昨年度	総合	
「生きる力」を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	学力向上の推進	1.指導計画の作成及び観測別評価と指導の一体化	B(3.8)	▽0.1	B	○学習指導要領の改訂に伴う授業内容の見直しや改善については積極的に進めており、生徒が活動した内容と評価の一体化は進んでいる。 ○習熟度別少人数授業は、概ね生徒のニーズに合わせた実施ができており、補習や課題の内容等については、生徒保護者アンケートでも不満な結果が出ており、今後の検討課題である。 ○海外研修や国際交流は、今年度久しぶりに実施でき、先方のみならず、生徒たちも前向きに取り組んでいるように感じられる。一方で、アンケートからは不満の声も必要あり、今年度の検証をしっかりとし、来年度の更なる活動の充実を目指していく。 ○GLIS生徒自身が、主体的に活動に取り組んでいる様子が見られ、教員のフォローもできている。 ○これまでの取組に加え、新たな取組を生徒からの提案で実施できていることは、とても有意義なことである。
			2.習熟度別少人数授業（英・数）の実施	B(3.8)	±0		
			3.新学習指導要領を踏まえた探究活動の授業	A(4.3)	↑0.1		
			4.補習（平常・長期休業中）の実施	B(3.8)	▽0.3		
		国際理解を深める教育	5.英語4技能試験の活用	A(4.3)	↑0.4	A	
			6.海外探究活動・海外語学研修の実施	A(4.6)	↑1.7		
			7.国際交流（姉妹校交流、オンライン活用）	A(4.5)	↑0.5		
	理数教育の充実	8.大学模擬授業、大学フォーラムへの参加	A(4.0)	↑0.1	A		
		9.GLISリーダーシップワークの実施	A(4.4)	↑0.2			
		10.専門機関講師による科学探究・実験講座	B(3.7)	▽0.5			
		11.校訓に基づいた校風の醸成	B(3.7)	▽0.2		B	
	人間力の育成	12.生徒会活動の活性化	A(4.1)	▽0.1			
		13.生徒主体の県伊祭（文化祭）	A(4.3)	±0			
		14.地域課題探究の実施	B(3.8)	▽0.2			
	「健やかな体」の育成	心・技・体の醸成	15.生徒主体の体育祭・球技大会	A(4.3)	↑0.1	B	
			16.活動方針に基づいた部活動の実施	B(3.8)	▽0.2		
		健康教育・安全教育	17.登下校等の安全確保	B(3.6)	↑0.1		
			18.WBGTによる熱中症対策	B(3.6)	▽0.2		
子どもたちの学びを支える環境の充実	教職員の資質・能力の向上	19.研究授業週間等、授業改善の取組	B(3.6)	▽0.3	B	○今年度は、ICT委員会を中心とした、情報機器関係の職員研修を多く実施できた。特に、自動視点システムの利用職員が増えたことで、業務改善を進めることができた。 ○働き方改革の推進を、教員個人が積極的に進めており、勤務時間の適正化が進んでいる。その一方で、仕事量や働き方の格差を感じる教員も少なくなく、引き続き業務改善に努めていく必要がある。 ○家庭との情報共有や連携を高い頻度で行っている。ミマモルメの利便性が高い。 ○生徒主体のオープンハイスクールが外部にも好評で、生徒も充実感を感じているようである。 ○中学生やその保護者に対しての学校説明の機会を増やし、HPもリニューアルする等、広報活動に力を入れて取り組んでいる。 ○同窓会、PTAの学校活動への参加と支援は、本校の大きな力となっている。	
		20.外部研修への参加・校内研修の実施	B(3.6)	▽0.2			
		21.1人一台端末利用に向けた活用研究	B(3.8)	▽0.1			
	学校の組織力の強化	情報共有	22.校務支援システムの運用	A(4.4)	▽0.1		B
			23.定時退勤日、ノ一会議デーの徹底	C(2.8)	↑0.2		
		いじめ・不登校への対応	24.情報セキュリティ徹底、情報資産管理	B(3.9)	±0		
	家庭と地域による学校と連携した教育の推進	外部機関との連携	25.校内委員会等の活性化	B(3.7)	▽0.1		A
			26.いじめアンケートによる早期発見・対応	A(4.3)	±0		
		家庭との協働	27.地元企業・自治体・大学等との連携	B(3.9)	↑0.1		
			28.PTAと連携した一斉メール配信	A(4.2)	▽0.2		
			29.広報誌「緑樹」の発行	A(4.5)	↑0.1		
			30.HP・ブログ等の発信	B(3.9)	↑0.1		
	地域への情報発信	31.生徒主体のオープンハイスクール	A(4.3)	↑0.1			
		32.同窓会・PTAとの参画・協働	A(4.1)	±0			
		33.学校評議員会、学校評価の改革	A(4.1)	↑0.1			

4 兵庫県教職員資質向上指標による自己点検 5段階で評価したのち、3段階（できている・できていない・わからない）

分野	資産	教員としての資質の向上に関する指標	よくできている まあまあできている	あまりできていない できていない	わからない
学習指導	授業実践力・授業改善力	1.学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。	88.9%	9.3%	1.9%
		2.学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。	92.6%	5.6%	1.9%
		3.主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。	87.0%	11.1%	1.9%
		4.評価規準に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。	81.5%	16.7%	1.9%
		5.わかる授業づくりに向けて、ICT機器等を活用することができる。	74.1%	22.2%	3.7%
学級・HR経営	集団を高める力	6.いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、その予防・解決に取り組むことができる。	94.4%	1.9%	3.7%
		7.学年・学級目標の実現に向け、学級経営やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して過ごせる学級づくりに取り組むことができる。	88.9%	3.7%	7.4%
		8.児童生徒との適切な距離を保ちながら、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリングマインドとストレスマネジメントに基づく指導を行うことができる。	96.3%	1.9%	1.9%
チーム制で組織を担う	協働性・同僚性	9.保護者や関係機関と連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成できる。	66.7%	22.2%	11.1%
		10.「教職員の勤務時間適正化推進プラン」をもとに、ワーク・ライフ・バランスや勤務時間の適正化を意識しながら、計画的に仕事を進めることができる。	62.3%	37.7%	0.0%
		11.児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。	96.3%	3.7%	0.0%
		12.校内における自分の役割を認識し、校務分掌を的確かつ効率的に遂行できる。	92.6%	7.4%	0.0%
組織的対応力	組織的対応力	13.校内の情報やデータを適切に管理し、取り扱うことができる。	96.3%	3.7%	0.0%
		14.学校安全のための危機管理を理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。	88.9%	11.1%	0.0%
		15.日頃から、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。	88.9%	0.0%	11.1%
資質自律性を高める	自己管理能力・変革力	16.適切な言動を心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。	92.6%	7.4%	0.0%
		17.日々の実践等を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている。	98.1%	1.9%	0.0%

5 学校関係者評価（総合）

○生徒アンケートを見てみると、本校に憧れて入学してきた1年生をはじめは戸惑い、2年生では徐々に自分の能力を伸ばし始め、3年生では自信を持って主体的に思考、共同し、のびのびと学年を過ごす毎に成長していく様子が見受けられる。また、教職員も非常に生徒を見ておられ、教師団として取り組んでおられることがよく分かる。学校が居心地の良い、暖かきところとなっている。保護者もメールやHP・ブログを見ておられ、良く協力されている。生徒と保護者のアンケート回答のズレも少なく、親子のコミュニケーションも取れているようである。学校が非常に良い状態であり、益々の発展が期待できる。課題としては、学校外の活動（ボランティア活動や地域貢献活動）にもっと多くの生徒が関われば良いと思う。まず、生徒会や部活動単位で連携して欲しい。全体的に見て、スクールポリシーの3つの心、4つの力が培われつつあると思う。これも先生方のご努力と愛情の成果だと感謝致します。
○コロナ感染症が第5類となり、学校活動も変化ともあった年度だったと思いますが、活動報告など拝見し、生徒が生き生きとされていることが伝わってきます。また人間形成に大きく関与する「体験」が貴校では、かなりできる環境を整えておられることに地域企業としても心強く感じております。自己実現に向けて生徒が各々考え行動できる環境を整えらされており素晴らしいと思います。「考える」こと「行動」のつながりが「生きる力」となっていることを学生生活で学べるという貴校の強みをもっと保護者にもアピールされてもよいと思います。
○広報活動の充実については、記憶が定かではありませんが、中学校へ向かれて入学広報を実施されたのは初めてではないでしょうか。現状維持は衰退とも言われる通り、待ちから攻めの広報に転じられた柔軟性はとても素晴らしいと感じました。またPTA副会長や早稲校長先生からのコメントにもありましたが、大学の進路実績は保護者目線で知りたい情報だと思いますし、一方で生徒目線ではリアルな高校生活を知らないのであります。その2方向を同時に叶える場を設けるのか、別建てにして深堀りするのかが検討の余地があると感じました。
○国際活動と英語力の向上については、学力と経済力の比例性はよく議論されることですが、県高全体（全在生）の英語力向上に対し経済面をクリアできるフレームがあるのは良いことだと思います。進級を含め基本的には交流～興味喚起を図られていますが、その先の学力向上に対するフォローアップの体制が見えませんでした。塾などの校外学習だけに頼らない、可能な範囲で校内で完結できるフローがあると大きな強みになると感じました。
○今年度の課題（広報活動の充実・国際活動と英語力の向上）について、その解消に向け、しっかりと取り組まれていると感じました。オープンハイスクールの参加者も増加傾向にあり、国際交流も再開され、成果として後、さらなる実績を重ねられることを期待します。
○3年間お世話になった我が子のお姿をみておると、スクールミッション通りという言い過ぎかもしれませんが、ほぼミッション通りに育て上げてくださったと感謝申し上げます。そして、我が子だけではなく、色々な場面でも高学年と関わる機会が多くなりましたが、皆、印象が良く、素晴らしい生徒ばかりです。社会で活躍できる人材をしっかりと育成できていると感じております。多様な受け入れられる良い時代になった半面、教育を怠りながら、難しく感じられることも多々あるのではないのでしょうか？変化していく時代に合わせることが大切ですが、基本的なスタイルは変えず、どうか今のままの県立伊丹でいてください！そして、世界に通用する人材をどんどん輩出して下さい。

6 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価
○「補習の内容と量」についての不満がどこにあるのか、アンケートを採るか、生徒に直接聞くなどして分析をして欲しい。英語4技能試験に取り組むことは良いこと、数値目標を持って取り組むことが励みになる。「国際理解を深める教育」の達成状況がR3も、R4もBであったのは良い、やはり海外研修に実際に行ったことが意欲を引き出していると思う。理数教育については、ここ3年間総合評価がAであることが素晴らしい。生徒自身が主体的に意欲を持って取り組み探究していく姿は、スクールミッションを具現化している姿である。 ○習熟度別少人数授業や国際交流は必ず一定数の不満のアンケート結果が出てはいるが、全員の満足を得ることは現実的でない中、その改善対応の方法はともないうまく進んでいました。地元企業としてはGLIS関係のみならずとの接点があるため印象としては勉強だけでなく仲間との協働が感じられると受け取られました。誰かが発表を前に出している時には、他のメンバー誰かが出るとも質問内容を聞きながら前に出てきた発表者に渡し、それに對して「ありがとうございます！！」と素直に感謝の言葉を言える自然な協力スタイルは素晴らしい校内の良い雰囲気なんだと心算するシーンでした。 ○生徒・保護者アンケートでこれからの課題も含めニーズをしっかりと把握されています。学校としてできなくていいこと、ニーズがあってもない方がいいことなど、精査していただき、貴校の特色化を図っていただければと思います。 ○「補習」についてですが、学年委員会でも必ずと言っていいほど「塾に通わせたいですか」という質問が上がってきます。私立高校では、塾に通わせなくても良いと保護者から声がかかるほど補習や補講がありますが、公立高校でそれを求めるのも良いと感じております。多様な受け入れられる良い時代になった半面、教育を怠りながら、難しく感じられることも多々あるのではないのでしょうか？変化していく時代に合わせることが大切ですが、基本的なスタイルは変えず、どうか今のままの県立伊丹でいてください！そして、世界に通用する人材をどんどん輩出して下さい。
○コロナ禍の探究発表会でも一貫して生徒の自主性を強く感じています。教職員のみならず柔軟性があるから実現できていると思います。会議内でも言及があった地域に出るチャンスを活かしたいとのこと、中長期的なプランがあれば達成・未達成の可視化ができていないか感じました。 ○これからの多様化・複雑化した社会の中で、生徒が自立して生きていくために、是非とも生徒の主体性をさらに育てていただきたいと思っています。 ○ボランティア活動について、評議員会でも地域活動に参加して欲しいと申し上げましたが、後よく考えますと、そんな時間はなかなかないと感じました。参加者を増やす工夫が必要ですが、参加すれば良い経験になると思います。
○部活動内容の生徒と保護者の意思疎通と何を指すのかは知りたくなかった。登下校の安全確保は教職員の働き方改革との連携でその担い手が難しい取組だと思います。自衛を前提に無理のない範囲のサポートに一層シフトするのではないのでしょうか？ ○部活動について、息子はサッカー部所属でした。親は執行部所属というところで、たまたま顧問の先生とお話する機会が多くなりました。意思疎通の機会を沢山設けられること期待しております。
○「教職員の働き方改革の推進」の自己評価が低いのが、教員の仕事には終わりがいいこと、この改善はなかなか容易なことではないと思われる。 ○教職員ICT技能の成熟については昨年同様とされているが着実に取り組まれていることが分かりました。一般企業と異なり教職員の働き方改革はプライバシーが高いハードルを感じます。一定レベルまでは学校長のトップダウンで保護者理解を得るなど教職員個人の判断に委ねないフレームが必要かもしれません。教員のプロの職能・児童の精神的育成や安全管理にどうも課題があると感じています。 ○引き続き、働き方改革を進めたいとともに、教員の資質の向上に尽力していただきたいと思っております。 ○県高の先生方は、皆さんとても熱心です。親としては大変ありがたいことですが、どうか大きな負担にならないようになり、心身ともに健やかに、日々のお仕事にあたられることを心より願っております。
○前年比▽0.1水準ながらB判定なのは何か原因があるのでしょうか？ ○関係機関との連携や校内の体制整備の今後の推進に期待します。 ○保護者として、学校の組織力は素晴らしいと感じています。校内でのトラブルはPTA執行部へも比較的早期に連絡をいただいています。外部機関との連携も継続をお願いいたします。
○学校のこの分析がよく出てくると思う。 ○この分析のOに記載のコメントと前年比▽0.2には認識に乖離があるのかと感じました。地域への情報発信についてはPTA副会長からコメントを伺いながら進めていくことが学校の片道通行ではなく地域が望んでいることを優先的に対応できれば協働の満足度が一段上がると思っております。但、PTAは組織や存在意義が問われる今、PTA=全保護者加入の構図が崩れはじめており、記載の「PTAと連携したメール配信」がいつまで成り立つのかはとも気がなりません。 ○広報活動が効果的になされていると感じました。今後とも生徒や保護者の視点で考える事を続けていただきたいと思っております。 ○今年度より、ミマモルメの活用を積極的に進めていただきました。利便性の高さは保護者も十分実感しています。また今年度より、PTAが新制度を導入しますが、大切な部分を守りつつ、時代に合った団体にし、より一層、学校との連携を図ることが出来ればと改めて感じさせられました。